

産業 産業

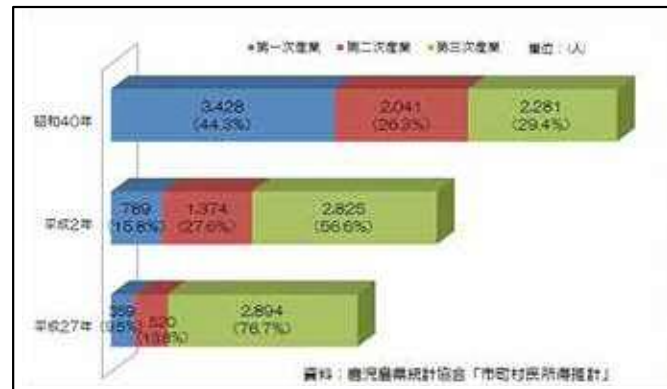
【課題】

D-1 働きたい仕事がない

【現状と必要性】

（雇用の現状）

- 求人倍率（ハローワーク名瀬）が高い水準を推移している。  
※0.92（平成28年12月）→1.18（平成30年12月）
- 雇用の場は増加傾向にあるが、就業率は横ばいであるため、働き手の総数は人口減少と比例して、減ってきている。
- 第一次産業（農林水産業）が急激に減少し、医療・介護系に就く人の割合が増加している。



（働く環境の整備）

- 加計呂麻島、請島、与路島で暮らしていても働くことができるよう、情報格差を是正する必要がある。

【KPI】

	基準値 (2018年度)	目標値 (2023年度)
瀬戸内町には仕事がある	11.0	⇒ 25.0
今の仕事に満足している	34.0	⇒ 50.0

【SDGs】



【基本計画】

■新たな産業の誘致・起業支援

事業計画	期間 (令和元年度～令和5年度)
I 新たな産業の誘致・雇用促進 ⇒（主な施策） ① 企業誘致の推進 企業の誘致を行うため、都市圏で本町の魅力をPRするため企業に赴き、直接働きかける。本町の企業誘致・支援策を町内外へ幅広く周知を図り、企業へ提供できる施設や土地等の把握にも努める。 瀬戸内町企業立地等促進助成金（用地取得や設備投資等）→企業立地協定の締結 ② 起業家支援補助 地域経済の活性化及び雇用機会の拡大を図ることを目的として、町内で新たに起業する者に対し、支援する。	令和元年度～令和5年度
II 仕事環境の整備・提供 ⇒（主な施策） ① コワーキングスペース等の整備 子育て世代の主婦層等への仕事環境の提供を目指す。また、チャレンジショップなど出店しやすい環境づくりを図る。 ② 閉校・休校活用 全国的にも閉校をカフェやイベントスペース、宿泊施設等に活用している。  （平成31年3月時点での利用状況）	令和元年度～令和5年度

閉校	活用内容
嘉徳小	⇒ 美術品の展示
古志小	⇒ -
管鈍小中	⇒ -
押角小中	⇒ 魚醬づくり
節子小中	⇒ 農業体験
須子茂小	⇒ -
休校	活用内容
俵小	⇒ 音楽イベント等開催
薩川中	⇒ -
久慈小中	⇒ 活用を検討中
俵中	⇒ -

産業 産業

【課題】

D-2 農林水産業の活性化

【現状と必要性】

（農業の現状）

- ・農業を取り巻く環境は、農業資材の高騰、担い手不足と農業従事者の高齢化、農地所有者の不在問題など極めて厳しい状況にある。
- ・後継者の育成及び需要の動向を見極めながら、地域振興の活性化に貢献できる作物としての定着を図っていく必要がある。

（林業の現状）

- ・木材価格及び需要の低迷・労働力の減少・高齢化等による林業採算性の悪化により、林業施業への意欲が減退している。
- ・特殊病虫害の発生や台風や豪雨、干ばつなどによる自然災害など極めて厳しい状況にある。

（水産業の現状）

- ・資源の減少や消費の低迷などにより、特に漁船漁業においては、水揚高が落ち込んでいる。
- ・近年の燃油価格高騰による出漁経費の増大に加え、島外消費に依存せざるを得ない当地区の漁業生産者にとっては、出荷コストの増大も伴い、経営は大変厳しい状況にある。

（畜産業の現状）

- ・担い手の高齢化と後継者の不足、飼料確保の問題のため、子牛、豚の生産頭数において、ともに年々減少傾向にある。

【KPI】

基準値 (2018年度)      目標値 (2023年度)

産業（農林水産業）の活性化に取り組んでいる      —      ⇒

【SDGs】



【基本計画】

■農林水産業の振興（生産量の拡大、人材育成・後継者確保、振興対策）

事業計画	期間 (令和元年度～令和5年度)
I 農業の振興 ⇒（主な施策） ① 生産量の拡大 「奄美・せとうち地域公社」でさとうきびの生産拡大、雇用の創出を図る。また、いっちゃん市場等での地場産農産物販売向上を図る。 ② 人材育成・後継者確保 営農支援センターで新規就農者や就農希望者に基礎知識・栽培技術の習得を促す。 ③ 農業の振興に必要な対策 農林水産物輸送コスト支援、特殊病虫害対策等	令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度
II 林業の振興 ⇒（主な施策） ① 林業の振興に必要な対策 市町村森林整備計画による計画的な森林造成各種事業等を適切に実施することにより、健全な森林の整備に努める。	令和元年度～令和5年度
III 水産業の振興 ⇒（主な施策） ① 人材育成・後継者確保 新規漁業就業者に対する漁船・漁具等のリース料を支援します。 ② 水産業の振興に必要な対策 鹿児島や沖縄への出荷コスト補助を行い、安定した漁業経営を支援する。 魚価の向上と漁業コストの削減に向けた取組を実施し、漁業所得の向上を実現させ、漁村地域の振興発展のための施策を展開する。 特別水産業対策基金で借入する漁業者へ、利子補給を行い、安定した漁業経営を支援する。 古仁屋漁港ターミナルビルの管理・運営	令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度
IV 畜産業の振興 ⇒（主な施策） ① 生産量の拡大 飼養頭数の維持・増頭を図る。 畜産基盤再編総合整備事業等	令和元年度～令和5年度

産業 産業

【課題】

D-3 商店街の活性化

【現状と必要性】

（商店街の現状）

- ・生産年齢人口の減少による働き手の減少や消費者人口の減少による消費の縮小など、経済活動の減速をはじめ社会や地域などへ深刻な影響を及ぼしている。
- ・商工業者が高齢化等の理由により廃業が多く、後継者確保も厳しい現状がある。また、店舗を利用したいという借手がいたとしても地主との交渉が進まず、実現に至らないことも多い。
- ・豊富な品揃えや広い駐車場が設置されているなど、買い物の効率性・利便性の高さから町外の大型店舗やインターネットを活用したネット販売等への消費の流失が大きくなっている。

地元購買率の推移

単位：（％）

地元購買率（％）				
H12	H15	H21	H24	H27
57.7	55.5	61.7	35.2	48.3

（出典）鹿児島県消費者購買動向調査報告書

【KPI】

	基準値 (2018年度)	⇒	目標値 (2023年度)
市街地の活性化が進められている	18.0	⇒	40.0
産業（商店街）の活性化に取り組んでいる	—	⇒	

【SDGs】



【基本計画】

■商店街の活性化

事業計画	期間 (令和元年度～令和5年度)
I 町民の域内消費喚起の促進 ⇒（主な施策） ① プレミアム商品券の発行 地元消費拡大、地域全体の経済活性化を図るため、年2回（5月、10月）商工会より販売される。 ② 消費者行政活性化事業 町民の地元消費拡大、また地域全体の経済活性化を図る。 また、特殊詐欺にあわないよう相談員による消費者啓発・教育を図り、安全な消費生活を目指す。	令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度
II 空き店舗の利活用 ⇒（主な施策） ① 空き店舗利用の実現 店舗を引き継ぐための後継者対策を図るとともに、店舗を借りる際には、店舗所有者と借手の交渉など、行政と商工会等も一体となって取り組む。	令和元年度～令和5年度
III 活気ある商店街の推進 ⇒（主な施策） ① 商工祭り等の実施 「買い物の場」としてだけでなく「地域コミュニティの担い手」としての商店街の役割を確立させる。 ② 物産展等への出店 尼崎物産展等へ出店し、特産品の販路拡大を図る。 ③ キャッシュレスへの対応（商工会と連携） クレジットカード、電子マネー利用に対応する。	令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度  令和元年度～令和5年度
IV 設備投資等への支援 ⇒（主な施策） ① 商工業制度資金利子補給事業 店舗改装または機械設備投資や、事業を行うための運転資金として借り入れた金額に対し、補助を行う。	令和元年度～令和5年度

関連する計画

「瀬戸内町導入促進基本計画」

産業

## 産業

### 【課題】

D-4 観光業を活用した産業の活性化

### 【現状と必要性】

#### （本町の観光事情）

- ・2014年7月の奄美－成田空港間、2017年3月の奄美－関西空港間のLCC就航による大都市からの輸送力拡大に伴い、奄美大島への入込客は右肩上がりで見えています。また、2020年夏の世界自然遺産登録を見据え、外来種対策や希少種の保護、普及啓発といった自然保護への取組と奄美大島1市2町2村の観光各団体・組織で構成される一般社団法人あまみ大島観光物産連盟が一つの「島」として観光ワンストップサービスを実現するためのDMO構築に取り組んでおり、瀬戸内町においては、こうした奄美大島全体の取組と連動性を持たせた観光振興を進めていく必要がある。
- ・観光客増加傾向の社会動向に応じた、文化財（自然・文化・歴史）の調査、保全、整備、情報発信が必要である。
- ・島の自然・伝統文化・歴史をめぐっては、近年、奄美大島のテレビ等メディア露出増加とともに観光客が増加傾向にあるなかで、鹿児島でも沖縄でもない「奄美」を求める需要が高まってきている。

#### （観光をあらゆる産業へ波及させる必要性）

- ・観光関連産業の発展が期待される中、地域資源（観光資源、クロマグロ、農林水産加工品）を有効活用し、魅力的な特産品開発及び観光開発により地域振興を図る必要がある。

### 【KPI】

	基準値 (2018年度)	目標値 (2023年度)
産業（観光）の活性化に取り組んでいる	—	⇒

### 【SDGs】



### 【基本計画】

#### ■観光をあらゆる産業へ波及させるための仕組みづくり

事業計画	期間 (令和元年度～令和5年度)
I 商工業（飲食サービス・宿泊所）と観光 ⇒（主な施策） ① 体験型・滞在型観光メニューの造成 奄美せとうち観光協会などと連携し、独特な観光資源を生かし、体験型・滞在型観光メニューの作成や受入れ体制の充実を図る。観光アプリ等	令和元年度～令和5年度
II 世界自然遺産と観光 ⇒（主な施策） ① 世界自然遺産奄美トレイル 持続可能な観光を確立するために、地域の環境や自然、歴史、文化を守りながら本物の自然体験などを提供する。 ② 琉球弧の島々との連携 琉球諸島や屋久島と連携し、世界自然遺産を巡る観光ルートの構築を検討する。	令和元年度～令和5年度
III 漁業と観光 ⇒（主な施策） ① ブルートーリズムの推進（観光漁業の活用） ブルートーリズムの推進を軸とした観光漁業の発掘を目指す。	令和元年度～令和5年度
IV 文化と観光 ⇒（主な施策） ① 戦争遺跡等 大島海峡沿いに多くある戦争遺跡等や白糖工場跡地などを広く認知してもらう取組を講じる。 ② 大島紬 幾多の行程を経て完成する大島紬の織工などを広く認知してもらう取組を講じる。	令和元年度～令和5年度
V スポーツ・イベントと観光 ⇒（主な施策） ① 祭り・イベント等の充実 世界に誇れるイベントである奄美シーカヤックマラソンin加計呂麻島大会をはじめ、加計呂麻島ハーフマラソンやみなと祭りなど、より魅力あるイベントとなるよう創意工夫を図る。	令和元年度～令和5年度

産業 産業

【課題】

D-5 観光客増加の対策

【現状と必要性】

（観光客の推移）

- ・奄美大島における入込客は、平成26年度（2014年度）から導入された航路航空路運賃低減化事業やLCC（格安航空）の参入により年々増加傾向にある。
- ・2020年の登録を目指している奄美琉球世界自然遺産に伴う外国人観光客の増加が見込まれるため、対策が必要である。

入込客数の推移

（単位：人）

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	H29-H25
奄美大島	370,360	393,654	422,527	431,740	473,704	103,344
瀬戸内町	101,725	96,855	121,962	130,903	131,376	29,651
加計呂麻島	46,101	46,259	48,240	48,224	44,909	▲ 1,192
請島・与路島	1,482	1,367	1,307	1,311	1,336	▲ 146

※（出典）奄美群島観光の動向

（観光客の受入体制）

- ・カード決済や電子マネーが導入された店舗が少ない。
- ・観光客の過剰な増加による環境負荷も危惧されることから、交通とガイドを連携させた案内方法の確立など適正なルールを構築する必要がある。

【KPI】

基準値  
(2018年度)

目標値  
(2023年度)

産業（観光）の活性化に取り組んでいる

— ⇒

【SDGs】



【基本計画】

■持続可能な世界基準の観光地づくり

事業計画	期間 (令和元年度～令和5年度)
I 観光客の受け入れ体制の充実 ⇒（主な施策） ① 奄美せとうち観光協会との連携 世界自然遺産登録を契機とした観光客の増加に対応するため、持続可能な観光・環境負荷軽減を目的とした受入体制を構築する。 島案内人受け入れ事務局（仮称）等	令和元年度～令和5年度
II 観光施設等の充実 ⇒（主な施策） ① 加計呂麻島シェアサイクル事業 環境にやさしい新たな旅行ツールとして位置づけていく。 ② 加計呂麻島展示・体験交流館 リニューアルされた加計呂麻島展示・体験交流館を拠点に、世界に加計呂麻島の魅力を発信する。 ③ 観光拠点施設整備・管理 トイレ・シャワー施設改修等、観光案内版、駐車場等の整備。魅力ある観光地推進事業 ④ 観光資源の保全と活用 豊かな自然環境及び貴重な歴史・文化を保全するとともに観光資源として活用を図る。 サンゴの石垣、デイゴ並木、ホノホシ海岸等	令和元年度～令和5年度
III インバウンド（訪日旅行）対応 ⇒（主な施策） ① クルーズ船の誘致 地域経済の発展、観光立国・地方創生の実現を目指す。 ② 観光情報誌（パンフレット等）の作成 多言語対応、観光客受け入れを促進する。	令和元年度～令和5年度

関連する計画

- 「瀬戸内町観光振興計画」
- 「奄美群島持続的観光マスタープラン」
- 「奄美大島DMO組織構築基本計画」